

令和4年度きのくにコミュニティスクール座談会（海南市）

日時：令和5年2月3日（金）13：30～15：30

会場：海南 nobinos 会議室A

参加者：14名（校長1名 教頭3名 学校運営協議会委員5名 公民館長1名 PTA1名
市町村行政職員3名）

テーマ：「地域と共に進めるCS」

講師：和歌山県CSマイスター 森 博司 氏 下田 喜久恵 氏

1 ミニ講演（事前に参加者から頂いた質問にCSマイスターから回答してもらった。）



Q. コミュニティ・スクールが認識されるまでどのような活動をしてきたのか。

森 氏 学校に県主催研修会への参加を呼びかけたり、県作成のリーフレットを配布するなど、啓発活動を行ってきた。串本町では、「児童生徒の減少により単独で運動会の実施ができなくなったので、小中合同運動会が実施できないか」「子供たちに地域にある国指定無形文化財の理解を深めさせたい」「国内初の民間ロケット発射場ができるので子供たちにも広く知ってほしい」などの学校や地域の課題を、コミュニティ・スクールの仕組みを活用し解決することで認識が広まってきた。

Q. 教職員への理解を進めるために、具体的にどのような手順を踏んで歩んでいけばよいのか。

下田氏 教職員への推進に向け、今後は学校単位での研修を行うことが必要。研修では、教職員に、新たに何かをしなければならないということではなく、日頃あるいは授業で行っている地域とつながった活動の意味や意義を改めて理解してもらい、それが子供のためにも地域のためにも大きく役立っているということを伝えていくのが良い。また、学校運営協議会で教職員への理解を進めるのはどうすれば良いかと提案してみるのも良い。

Q. コミュニティ・スクールを推進していくために、どのような部会を作れば良いのか。

森 氏 部会を作るときには、学校の規模や保護者・地域の実態を十分に把握した上で、どのような課題があるかを学校運営協議会で熟議して作っていくのが良い。串本町のある学校では、共育コミュニティの流れをくんだ三つの部会があり、それぞれ、学校の課題を受けて活動をしている。

- ・学校共育部会…学校で地域の支援が必要な場合に活動（書写の活動など）
- ・地域共育部会…地域の中で必要なことについて活動（合同避難訓練、地区清掃など）
- ・家庭共育部会…家庭での支援が必要な場合に活動（おやつ作り、お弁当作りなど）

Q. 中学生自身が関われるコミュニティ・スクールの取組、実践例

下田氏 地域の課題を生徒から出させ、解決するためにはどうすれば良いか、直接、生徒を聞き取り調査へ行かせるのが良い。ある地域では、「高齢者がゴミ出しに困っているので、中学生に少しでも手伝ってもらえないだろうか」といったニーズがあった。こういった地域のニーズを中学生が実際に知ると、解決するために関わっていくことができる。

Q. コロナ禍でも行っている取組を教えてください。

下田氏 「コロナ禍だからこそ」という取組としては、学校運営協議会発案で子供たちが学校で作成した作品を町中で展示してもらったり、地域の方に小学生が手紙を書いたりして、地域を元気づける活動を行った。また、コロナ禍でも、総合的な学習の時間でじゃがいもの植え付けを地域の方と行った時には、作業の前後で地域の方と子供たちでクイズを出し合うなど交流を深めている。さらに、6年生は卒業にあたり、地域の中で一番思い出のある場所を写真に撮り、それを地域の方に伝える活動をしている。

Q. 学校運営協議会を今後発展させていくための視点

森氏 学校運営協議会で熟議を重ねることが重要。学校の具体的な課題を協議の場に出してくれれば、熟議が活発になりそれを契機として発展していくことが考えられる。

2 交流（【成果】と【課題】について協議し、CS マイスターからアドバイスをもらった。【☆】）



【成果】

- ・小学校創立 150 周年記念事業で、組織立って協働活動ができた。
- ・活動を通して参加者の親睦を深めることができた。

【課題】

- ・子供の虐待未然防止に向け、学校と福祉の連携作りをコミュニティ・スクールでできないだろうか。

☆ 成果や課題を学校運営協議会の場に出していくことが大事。課題については熟議していけば、解決策は見えてくる。

【成果】

- ・地域の方々が、子供たちに積極的に関わってくれるようになった。子供のために地域の方が活動してくれることがありがたい。

【課題】

- ・コーディネーターになってくれる人が見つからない。どのような方をお願いすればよいのだろうか。



☆ コーディネーターは、「冷静に判断してくれる」「学校、地域の願いを受け止めてくれる」「課題解決に向け即座に動いてくれる」「情報を伝達してくれる」などの方をお願いするのが良い。



【成果】

- ・大人と子供、大人同士のつながりができた。
- ・学校の行事に参加することが増えた。

【課題】

- ・コミュニティ・スクールに関わる人材の育成、後継者をどうすれば良いか。

- ☆ 人材は地域の中に必ずいる。コミュニティ・スクールに関わってくれる方が年長者であってもやりがいを感じている人は多い。

【成果】

- ・登下校時の見守り活動で、子供と触れ合うことができうれしい。
- ・中学校の職場体験の事業所を学校運営協議会委員に探してもらった。

【課題】

- ・周りに子供が住んでいないので、学校や子供たちの様子がわからない。



- ☆ 学校の様子を校長がホームページで発信している学校がある。コミュニティ・スクールを充実させるためにも、校長は学校の広報担当になって欲しい。

3 参加者感想（一部抜粋）

- ・少人数で活発な意見交換ができて非常に良かったです。大変、話しやすい雰囲気でした。コミュニティ・スクールの重要性を再認識しました。
- ・和やかな雰囲気の中、様々な視点（学校、行政、福祉、地域等）でコミュニティ・スクールの意義、活性化させるためのポイントや課題を考えることができ、たくさんのヒントを得ることができました。
- ・大変、勉強になりました。学校運営協議会が年3回の開催では足りないくらいの学校が海南省でも出てくると良いなと思いました。地域の中に、子供、保護者、若者、大人、高齢者のあふれんばかりの笑顔が見られる様に歩んでいきたいと思えます。
- ・実践例や課題などを教えていただき、これらのことを学校で伝えていきたいと思えます。
- ・CSマイスターさんの熱意をお聞きし、少し前に進めるような気がしています。
- ・他の地域の活動やCSマイスターさんのお話を聞くことができ、学びになりました。どこも、人材育成の悩みがあるとの話も聞き、同じ悩みがあることがわかりました。
- ・学校運営協議会委員の役割について理解できました。児童養護施設が校区内にあることに、施設として正直地域にご迷惑おかけしていると感じていましたが、これをきっかけに貢献できることをさがしていきたいと思えます。
- ・行政機関として、社会教育と学校教育の連携がこれから必要であることを再認識しました。
- ・コーディネーターと学校とのつながりの大切さを改めて感じました。